



4月7日行政監視委員会

政権を変えるしかない。

コロナの感染拡大が止まりません。
それなのに、ワクチンも、検査も足りず、補償も不十分。
入院すらできずに亡くなる命があるのに、
オリンピックだけは、なにがなんでも強行し、
「脅し」や「圧力」で国民に言うことを聞かせようとする政府。
私権を制限するために憲法を変えるとまで言い出しています。

「もう限界です」という言葉を
ライブハウスの方からも、映画・演劇関係者からも、
飲食店、学生のみなさんからも聴いてきました。
「オリンピックより修学旅行にいきたい」という
子どもたちにも出会いました。
この声を届けても届けても、応えない政府の姿勢に、
私も、何度、悔しい思いをしたでしょう。

もう、変えるしかありません。
誰も取り残さない、希望が見える新しい政治を。
いよいよ迫る総選挙で、必ず政権交代へ。がんばります。
吉良よし子

コロナ対策がすすまないのは 憲法のせい?



菅首相

新型コロナウイルスへの対応をうけて緊急事態条項への関心が高まっている。憲法にどう位置づけるかは、大切な課題。
(5月3日の改憲派集会での発言)



自民党議員

憲法審査会

現行憲法のせいで、休業要請や時短要請などに強制力をもたせることができない。緊急事態条項の創設が必須。

5月3日の首相発言に続き、憲法審査会でも自民党議員が次々と改憲を求め発言。私は改憲反対の意見表明を行いました。

緊急事態宣言とは違い、
憲法停止の状態をつくるのが
「緊急事態条項」。

コロナ対応で迷走する政府の
失政を棚に上げ、感染拡大を
国民や憲法のせいにするなんて
言語道断。コロナの今こそ、
憲法をいかした政治を。



吉良よし子

改憲の第一歩である国民投票法に反対しました。
改憲でなく、憲法いかす政治こそ。総選挙で決着を。

つづくコロナ禍 新たな支援は 拒否する政府

文化芸術支援 行き届かず

支援の谷間に落ち込んだライブハウス。文化庁の継続支援事業は6000件も打ち切り。行き届かない支援について国会で追及。SNS上で拡散され、新聞各紙(朝日・日経)が取り上げるなど注目されました。

国や政府は
ずいぶん冷たいな、
という印象です



WeNeedCultureのみなさんと(5月6日)



吉良質問を新聞各紙も報道
(3月16日付 朝日新聞朝刊、
4月9日付 日本経済新聞朝刊より)

大学生支援 もっと

寝て空腹を
ごまかしている

一日
パン一個

全国で取り組まれている学生向けの食料支援で出された声を示し、緊急給付金の再支給を求めましたが、菅総理は拒否しました。



5月15日憲法審査会

あなたの声が政治を動かしています

都議会との連携プレー

3月16日
文教科学委員会



国会質問で

理不尽な校則「下着の色は白」
「ツーブロック禁止」見直し迫る

生徒が主体の校則へ 国を動かす

3月16日国会で都議団等のアンケート結果をもとに、ツーブロック禁止や黒染め強要などの理不尽な校則について質問しました。



現役高校生とも懇談

4月24日 都立北園高校のみなさんと

吉良さんとは給食、少人数数学級、性教育など連携してとりくんできました。中でも校則問題は画期的な前進です。大臣から「人権人格を否定する校則は望ましくない」と答弁を引き出し、通知も出させた。今後も共同して子どもを大切に作る社会を作っていきたい。

池川友一都議



- 都議団のアンケートの結果
- 全国28の教育委員会が校則の見直しをすすめている事実

↓をつきつけ



「人権、人格を否定する校則は望ましくない」
「変えていくことはいいこと」

との文科大臣答弁を引き出す
(3月16日文教科学委員会)

6月8日に文科省が 校則の見直し通知を发出

「校則の見直し等に関する取組事例」(6月8日文科省事務連絡)

国会で求めたホームページでの校則の公表についても、新たに盛り込まれました！



国会質問で

オリパラへの
子ども動員やめよ

世論と力合わせ オリンピック 子ども動員中止へ

コロナ感染 熱中症が心配

都内90万人の子どもにオリパラ観戦させる学校連携観戦計画。

党都議団の論戦を生かし、国会でもいち早く中止を求め追及。7月9日東京都がオリンピックの観戦中止を決めました。



5月31日決算委員会

都議会で明らかにした学校連携観戦について、吉良議員がすぐに国会で大臣に「無観客になったら中止するべきだ」と迫り「中止」の答弁を引き出しました。世論の高まりと無観客の決定を受け、ついに東京都が中止を表明！都議会と国会の連携プレーで動かしました。

斉藤まりこ都議



多様性と個人の尊厳が大切にされる社会へ

ジェンダー平等 求める論戦を がんばりました！



1. 女子の定員が少ない都立高校入試での男女別定員制度。
同じ得点でも女子生徒が不合格となる問題について質問 (4月27日 文教科学委員会)
2. 教員の性暴力許さない。
教員による児童や生徒への性暴力をなくすための法律が超党派の協力で成立 (5月27日 文教科学委員会)
3. リプロダクティブ・ヘルス&ライツ実現へ。
経口中絶薬の早期導入求める (6月11日参院本会議)

少人数数学級実現へ 賛成討論



3月31日本会議

電話で現場の声を聴く



(2月3日国会内)

音楽の現場、もう限界です



Choose Life Projectの番組に出演(2月27日)

原発ゼロの未来を



反原発最後の国会前行動で(3月7日)

「理不尽な校則」を変えよう



池川都議と池内さおりラジオvol.5に出演(4月24日)

レインボー国会に出席



性的指向や性自認に関する公正と平等を求めるレインボー国会(4月27日国会内)

外環道事業は中止を



東京外環道訴訟口頭弁論報告集会でいさつ(6月2日国会内)

総選挙

野党連合政権の実現へ がんばります

比例代表
予定候補



衆議院議員
笠井亮



衆議院議員(東京20区)
宮本徹



前衆議院議員(東京12区)
池内さおり



医師・衆議院予定候補(東京4区)
谷川智行



吉良よし子・山添拓事務所事務局長
坂井和歌子



中央地区副委員長
細野真理

2人めを出産

この子たちの
未来のために
がんばります

